

山田町橋梁長寿命化修繕計画策定資料

1.背景、目的

図一山田町橋梁 供用年-橋梁数グラフおよび図-山田町橋梁 架設年代-橋梁数（累計橋梁数）の推移より、山田町が管理する橋梁の修繕・架け替えに要する費用に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠である。

このような背景から、橋梁の維持管理に関して計画的かつ実践的に維持管理を進め、橋梁の機能を健全に維持することにより、山田町の道路交通の安全性・信頼性を確保する。また、これまでの**事後保全的な維持管理対応型から計画的かつ、予防保全的な維持管理対応へ**と政策転換を図り、**長寿命化によるコスト縮減と予算の平準化**を図る。

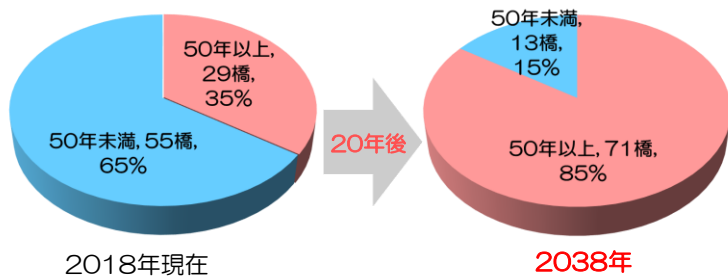


図-山田町橋梁 供用年-橋梁数グラフ

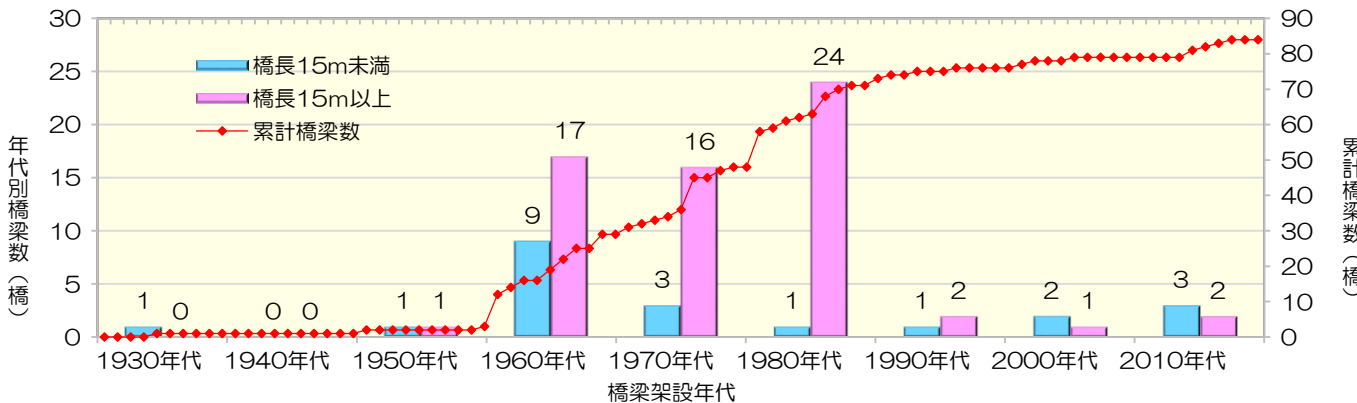


図-山田町橋梁 架設年代-橋梁数（累計橋梁数）の推移

2.橋梁の維持管理に関する基本方針

○定期的な橋梁点検

- 橋梁点検時、損傷状況の把握方法は各種要領に準拠する。
 - 「岩手県橋梁点検要領（案）（岩手県県土整備部道路環境課 H27.6）」
 - 「道路橋定期点検要領（国土交通省 道路局 国道・防災課 H26.6）」
 - 「橋梁定期点検要領（国土交通省 道路局 国道・防災課 H26.6）」
- 基本的に橋梁点検の期間は5年間に1回の実施とする。
- 健全性の診断は橋梁点検結果に基づき各部材単位及び橋梁単位にⅠ～Ⅳの4段階の判定区分で実施する。

判定区分の説明
Ⅰ：道路橋の機能に支障が生じていない。
Ⅱ：道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から処置を講ずることが望ましい。
Ⅲ：道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ：道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

○日常的な維持管理

①日常パトロールの実施

道路管理者が日常的に実施する。橋梁の路面から目視可能な範囲の部材を点検する。

②定期パトロールの実施

年2回程度の定期パトロールを実施する。橋梁点検の結果から構造安全性に影響する損傷箇所の確認を行い交通の安全に努める。

③異常時パトロールの実施

地震、台風、大雨などの自然災害及び異常気象の発生時に、交通安全性の確保、第三者被害の防止及び構造安全性の確保を目的として異常時点検を実施する。

④橋梁の良好な維持のための取り組み

定期パトロール点検時に小規模な修繕や清掃を実施する。（排水柵の詰り清掃 等）



排水柵の土砂詰り清掃

3.橋梁長寿命化修繕計画に関する基本方針

○基本方針

山田町では現在、2012年（橋長15m以上）および2015年（橋長15m未満）に策定した長寿命化修繕計画により、事後保全型管理から予防保全型管理への移行が継続中である。さらに、2014年（橋長15m未満）2016年（橋長15m以上）実施の点検結果を基に策定する本長寿命化修繕計画により、さらなる戦略的な維持管理に努める。

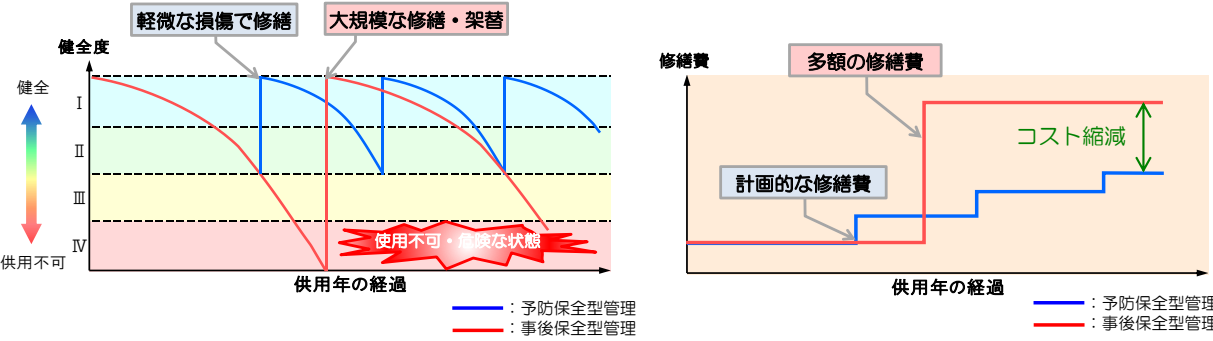


図-長寿命化修繕計画による効果

○効果的な維持管理水準の設定

山田町では過年度に策定した長寿命化修繕計画により、事後保全型管理から予防保全型管理への転換が行われている。さらに、本長寿命化修繕計画は、**山田町の地域の特徴を考慮したグループ分け**を行い、グループごとの管理水準を設定する。グループごとの管理水準を設定することにより、効率的な維持管理を行いコストの縮減を図る。グループ分けは下記の表-各グループ分け項目に則って行う。

表-各グループ分け項目と管理水準

	グループA 積極的予防保全	グループB 一般的予防保全	グループC 一般的維持保全
対象橋梁	・孤立集落あり ・迂回路無しかつ 緊急交通道路あり ・交差条件：鉄道	・重要施設及び避難所：300m以内 ・緊急交通道路あり ・橋長：100m以上 ・管理者指定橋梁：2橋	グループA,Bに 属さない橋梁

4.長寿命化修繕計画による効果

①健全度の向上

橋梁点検を実施し、橋梁の健全度を把握しながら適切な修繕工事を実施することで、橋梁の安全性が確保され、**将来にわたり健全な状態が確保**できる。

②コストの縮減

予防保全型管理の実施により、50年間累計予算では**約9億円（41%）**のコスト縮減が見込まれる。

この結果より、山田町の地域の特徴を踏まえたメリハリのある維持管理を行うことにより、予算を適切な箇所へ効率的に執行することができる。これらより住民生活の安心・安全の確保および道路交通の信頼性の向上につながる。

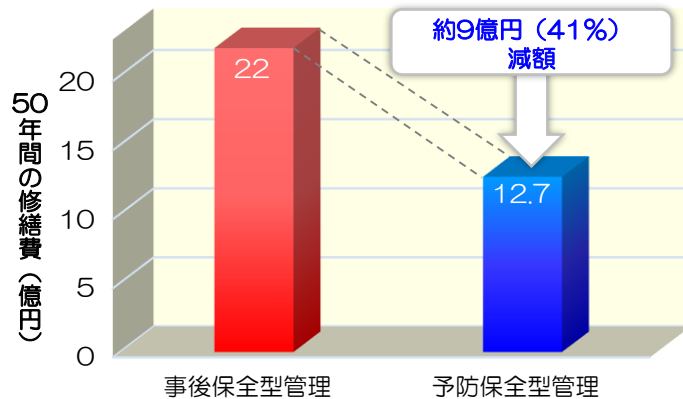


図-長寿命化修繕計画による効果